



case. 01

# 家族とともに豊かに育つ トドマツの家

息子さんがまだ小学生だった2011年、建築家の正田亨さん、智子さんは自邸を新築しました。関東から札幌市に移住してきたご夫妻は「北海道の素材を使いたい」と、建材の多くに道産のトドマツを用いました。さらに、その木肌の美しさを生かすために真壁工法を採用し、壁には道産の石灰や海藻などを自家調合した漆喰を塗りました。

それから7年の歳月が経ち、お子さんとともに成長したトドマツの家の床や柱は、鉛色に染まって艶やかさを増しました。「時間とともに木肌が黄色く変化するのがトドマツの特徴です。四季の中で材が伸縮を繰り返しながら、私たちの暮らしに馴染んできました」と、智子さんは穏やかな笑みを浮かべて話してくれました。



1. 真壁工法で、道産トドマツの柱や梁を現しに。経年変化で黄色味を帯びた材が、温かな表情をたくわえ、家族の暮らしを包み込んでいる
2. 南に設けた庭は、室内に四季の彩りと陽射しを運ぶ。公道側に設置した新緑が程よい目隠しになっている
3. サクラ材のキッチンも地元産にこだわり、当別町の家具工房「旅する木」に特注した
4. トイレの手洗いカウンターには、油分が多くて水に強い道産カラマツの無垢板を採用
5. 床材は、道産トドマツの厚板。季節や温度によって空いたり詰まったりする床板の隙間に、木の呼吸が感じられる



地元の木材を使うことで、環境負荷を減らせます。それは森林を育てることであり、森の適正な管理は、川や海の環境保全にもつながります。地材地消の家づくりは、地域貢献の一助といえるでしょう。そして何よりもトドマツなどの道産素材の風合いは、北海道の景色や気候に一番合っていると思うんです。(正田さん談)

この家で使用した主な道産材と部位

- トドマツ(外壁材、構造材、床材、建具の突板)
- カラマツ(トイレのカウンター)
- サクラ(造作キッチン)

設計/北の木・設計 施工/武部建設(株)